

自然観察

「富士山初冠雪」

(2021. 9. 7)



寺田縄地域の西方、たわわに実る稲穂の向こう、山頂に雪をかぶった富士山が見えました。



(2021. 9. 7 6:31)

前夜、夏掛けでは寒さを感じていましたが、目覚めると一面の青空、気温、湿度が下がりました。

昨日、御殿場市から「富士山頂に雪」の報。

今朝は寺田縄からも雪を観察できると、カメラを持って飛び出しました。しかし、カメラは電池不足でスイッチが不動、(マイッタナ・・・) 富士山は、山頂に白い雪を抱きどっしりとした雄姿を見せています。慌てて、スマホで撮影しました。

富士山の初冠雪を確認するには、「定義」があるそうです。『その年の「最高気温日」を観測して以降に、山の全部または一部が、雪または白色に見える固形降水(ひょうなど)で覆われている状態を下から初めて望観出来たとき』とされています。

「望観出来たとき」とは、目視するということです。山頂の雪を見て確認することです。見る場所によりますが、9月6日には御殿場市から、山頂のうっすらした白いものが観測されたそうです。

初冠雪の観測地は何処でも良いという分けではなく、富士山の北側、山梨県の甲府地方気象台からの目視によります。9月6日、御殿場で観測された日、甲府からは雲が多くて山頂が見えなかったため、初冠雪の報告とはなりませんでした。

以前、東京の気象庁では、庁内で職員が感じる地震の揺れの大きさを震度幾つとして発表していました。でも今は違います。

東京の春、桜の開花宣言は、靖国神社の指定桜木の開花の数を数えて発表されています。(以前は、上野動物園だったと記憶していますが)

いいですね、愛すべきアナログです。

初冠雪の平均日は10月2日。昨年は9月28日。今年は9月7日。早まっています。最近の気象の変化は、例年と異なります。世界的に見ても、40度にもなる異常な高温、住居をも焼却する森林大火災、大型台風ハリケーン、地球環境の大変革期を思わせます。

異常気象といわれ、今はなんとかしのいでも、現状が続く限り、今後20年、30年後、かわいい孫子の生活の舞台、地球環境はどのようになってしまうのでしょうか。今、我々ができること、次世代、将来に負荷を残さない持続可能な生活を構築せねばなりませんね。小さなことでも、エコバックは大切です。身近なところから、生活の見直しを進めねばなりません。みんなで協力して行きましょう。